

教科 国語 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、付けさせたい力を明確にするとともに、各学校の子どもの実態に応じた指導計画を作成する。	○ 小・中学校9年間の系統性を踏まえて、学習内容、指導事項及び単元の目標を明確にするとともに、子どもの実態に応じて重点化を図った年間指導計画を作成する。 ◎ 単元に合った言語活動を効果的に位置付けた指導計画を作成する。
指導の工夫	○ 子ども一人一人が、日常・社会生活に必要な基礎的な国語の能力を言語活動を通して確実に身に付けることができるよう指導方法を改善する。	○ 「A話すこと・聞くこと」の領域では、日常・社会生活と関連させた話題を適切に取り上げ、学習したことが日常・社会生活に生きて働くよう配慮し、指導の効果を高める。 ○ 「B書くこと」の領域では、相手や目的、意図を明確にし、指導事項の構成に応じて、文章を実際に書く活動を多く設定する。 ○ 「C読むこと」の領域では、自ら課題を解決するとともに、主体的な思考・判断を伴う学びを充実させるために、学習過程を明確にする。また、読書活動を進めるに当たっては、読む目的を明確にし、子どもの読書意欲を高め、読書活動に主体的に取り組む態度を育てる。 ○ 各領域の中に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を適切に位置付け、意図的・継続的な指導に努める。
評価の充実	○ 子ども一人一人のよさや可能性を伸ばす指導に生きる評価を工夫する。	◎ 学習課題との整合性を図り、ノートへの記述等多様な方法で本時の振り返りの充実を図る。 ○ 個に応じて言語能力を高めることができるよう、評価の観点や評価規準を具体的に設定し、学習の過程や成果を的確にとらえ、指導の改善に生かす。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3)
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **単元に合った言語活動を効果的に位置付けた指導計画を作成する。**

- ・ 単元で身に付けさせたい力を明確にし、単元全体を見通して最適な言語活動を位置付ける。

例【小4単元構想例】

- ① 小4の「読むこと」の能力を育てるため、物語教材文を使って、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと」について指導する。
- ② 単元に合った言語活動として、「読んだ本のおもしろさを伝える読書新聞作り」を設定する。
- ③ 教材文を用いて読書新聞作りのための読みの視点について理解を深めさせる。
- ④ 単元の終末に並行して読んできた好きな本を紹介する読書新聞を作成させる。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集
～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～
【小学校版】P47、48 (平成23年10月 文部科学省)

【言語活動の充実の工夫】

- 新聞記事で育成できる読む能力
 - あくまでも読む能力を育成するための活動
 - ・ 出来事を報道する記事
 - 物語のあらすじを説明する。
 - 場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化、情景を押さえて記事に書く。
 - ・ 解説記事
 - 紹介したい主人公の気持ちの変化などを場面の移り変わりと関わらせて解説する。
 - ・ インタビュー記事
 - 登場人物に架空のインタビューを行い、性格や気持ちの変化をとらえる。
 - ・ 紹介記事
 - 作者や関連する他の本を紹介する。

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **学習課題との整合性を図り、ノートへの記述等多様な方法で本時の振り返りの充実を図る。**

- ・ めあてに対する学習内容について、板書を用いて振り返り、まとめは自分の言葉でノートにまとめさせる。
- ・ 本時の学び(分かったこと、できるようになったこと)を自分の言葉で説明(再生)させる。
- ・ 友人との交流から得た学びについて、根拠と理由を明確にして文章化させる。
- ・ 言語事項の学習であれば適用問題に取り組みさせる。